

主体的な存在としての自己

自己(自分)

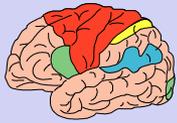
世界(他者)

生きる目的・人生の指針

観察

感受

他者からの作用



情報

過去の経験

知識

参照

考察

活用

すべての責任は
自分にある

判断

選択

行動

他人から作用を受けたとしても、それを自分なりに分析して判断を下したのであるから、自分の行動の責任は当然自分にある。主体的存在および必然とはそういうことである。



この世界で起こっていることはすべて偶然である。ただし、主体的存在である自己が為すこと(自分の行為)は、すべて必然である。そのために重要な条件は、主体的存在である自分が、生きる目的・人生の指針を明確に理解していること。

この世界が縁起によって成り立っているなら、第一原因はない。したがって誰にも責任を問えないことになる。ならばいかなる犯罪者も責任を問えないのか？もし犯罪者が単なる現象なら責任を問えない。ただし、主体的存在なら責任を問える。なぜなら自己が判断を下した結果だからである。(裁判等で)犯罪者に責任を問うのは、犯罪者の主体、すなわち人格を尊重しているからである。